

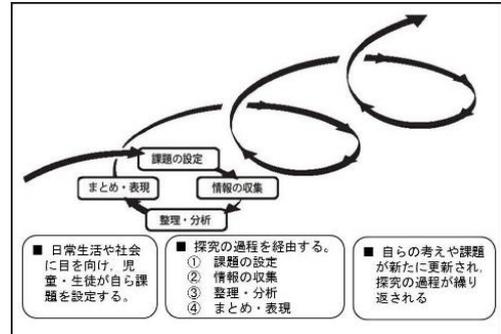
Ⅲ-6

総合的な学習の時間とは

(1) 総合的な学習の時間とは

総合的な学習の時間は、物事の本質を探って見極めようとする一連の知的営みである「探究的な学習の過程」を本質と捉え、中心に据えた学習です。

総合的な学習の時間は、これからの学校教育の在り方の一つとして、各学校の創意工夫を生かした特色ある教育活動と横断的・総合的な指導の推進のために創設されました。



(2) 総合的な学習の時間の目標及び内容

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- ① 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解できるようにする。
- ② 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- ③ 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

各学校において定める目標

各学校においては、学習指導要領における総合的な学習の時間の目標を踏まえ、各学校の総合的な学習の時間の目標を定めます。

この目標は、各学校が総合的な学習の時間での取組を通して、どのような児童生徒を育てたいのか、また、どのような資質・能力を育てようとするのか等を明確にしたものです。

各学校において定める内容

総合的な学習の時間では、各教科等のように、どの学年で何を指導するのかという内容を学習指導要領に明示していません。

これは、各学校が、総合的な学習の時間の目標の趣旨を踏まえて、地域や学校、児童生徒の実態に応じて、創意工夫を生かした内容を定めることが期待されているからです。

今回の改訂において、総合的な学習の時間については、内容の設定に際し、「目標を実現するにふさわしい探究課題」、「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」の二つを定める必要があるとされました。

(3) 特別支援学級における総合的な学習の時間の取扱い

特別支援学級は小・中学校に設置された学級であり、総合的な学習の時間が各学校の教育課程に位置付いていることから、学校全体として取り組んでいく必要があります。

したがって、特別支援学校の学習指導要領*を参考に教育課程を編成している場合も、小学校第3学年以上では「総合的な学習の時間」を設ける必要があります。

*知的障がい者を教育する特別支援学校では、総合的な学習の時間は中学部から創設されており、知的障がい特別支援学校の教育課程を準用する場合は、このことについて留意する必要があります。

(4) 総合的な学習の時間と生活単元学習の相違点

	総合的な学習の時間	生活単元学習
課題	<ul style="list-style-type: none"> 国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題 興味・関心に基づく課題 地域や学校の特色に応じた課題 	<ul style="list-style-type: none"> 生活に即した内容、行事、季節、偶発的事柄に関する単元 児童生徒の生活上の課題に関する単元 興味・関心に基づく課題
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> 各教科等で身に付けた知識や技能を相互に関連付け、総合的に働くようにすることを旨とする。(知の総合化) 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科等の内容を教えるための指導の一形態。生活の自然なまとまりに基づいて統合し、総合的に指導することにより、知識・技能・習慣・態度を身に付ける。様々な活動の結果として各教科等の内容を習得する。
評価	<ul style="list-style-type: none"> 数値的な評価はしない。 学習の過程、報告書や作品、発表や討論などに見られる学習の状況や成果、学習に対する意欲や態度、進歩の状況などから評価を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 知識・技能の習得など、各教科等の目標に沿った評価 主体性、集団参加の状況等の評価

(5) 計画例

小学校の自閉症・情緒障がい特別支援学級における総合的な学習の時間の単元指導計画例です。

探究課題	身近な自然環境とそこに起きている環境問題	
単元名	「ごみについて考えよう」	
学習過程	学習内容	指導方法
課題の設定	1 ごみとは何か <ul style="list-style-type: none"> ごみについてのイメージを膨らませる。 どのようなごみがあるのか予想する。 家庭で出されるごみについて調べる。 <予想される課題> <ul style="list-style-type: none"> ごみの分別 ・ごみの量 など 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の家の周り、地域、地球などについて考えさせ、問題意識をもたせる。 毎日、たくさんのごみを出して生きている自分の生活に気付かせ、ごみを少なくする方法を考えようとする意識をもたせる。
	自分たちの地域が抱える「ごみの量」を知り、ごみを減らすためにどのようにするとよいか	
情報の収集	2 グループで調査 <ul style="list-style-type: none"> インターネットや新聞等で調べる。 市役所や環境センターなど関係機関に問い合わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題を解決するための方法について、適切な計画を立てさせる。
整理・分析	3 課題の追求 <ul style="list-style-type: none"> <思考ツールの活用> 収集した情報を整理・分析する。 マトリックス表、ウェビングマップ、KJ法で分析 	<ul style="list-style-type: none"> ワークショップでは、友達同士の意見交換やアドバイスを大切にさせる。
まとめ・表現	4 ごみを減らすためには <ul style="list-style-type: none"> 自分たちにできることを考える。 <予想される行動や発信> <ul style="list-style-type: none"> ごみ拾いをする。 ・給食を残さず食べる。 ごみ減量と呼び掛けるポスターを作る。 など 	<ul style="list-style-type: none"> ごみを減らすための実践を続けていけるよう、助言する。

○ 探究的な学習となるよう、単元の指導計画に4つの学習過程を位置付け、単元を構成する。

○ 自分の考えを述べる際に、各教科等で学習したまとめ方などを活用する。

○ 発表するだけで活動が終わることがないように、振り返りや自己評価等の充実を図る。